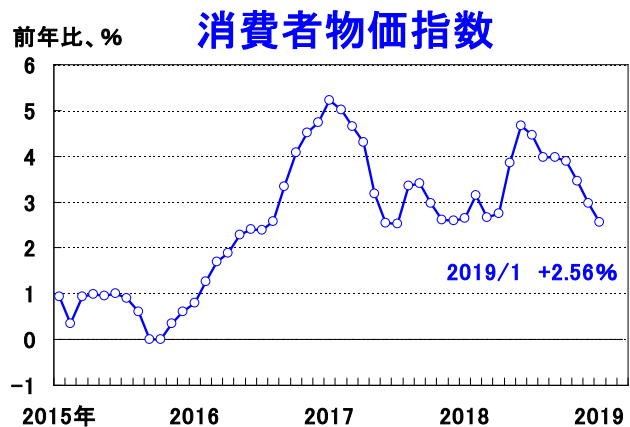
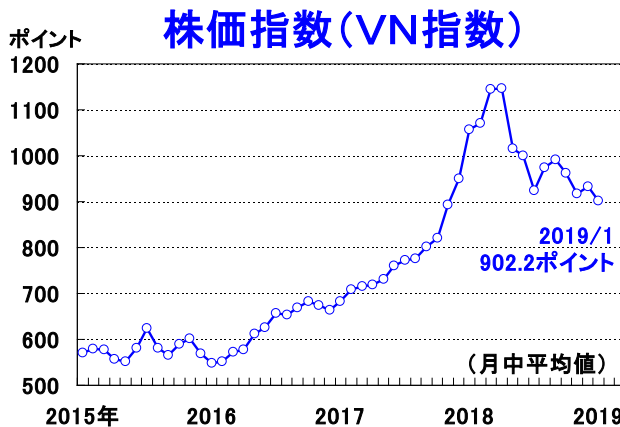
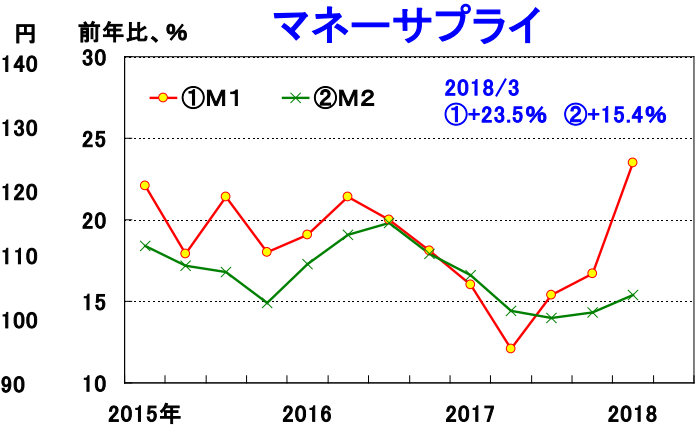
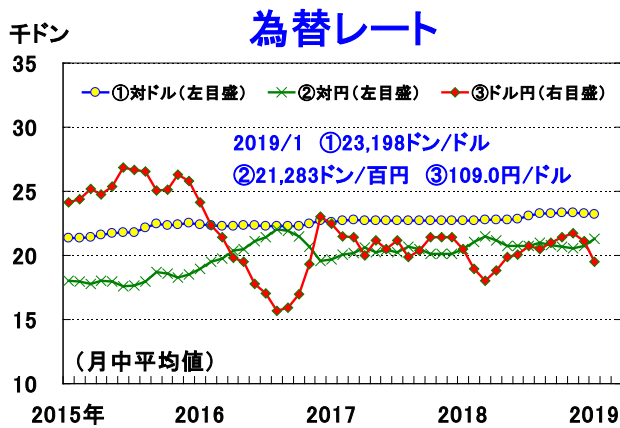
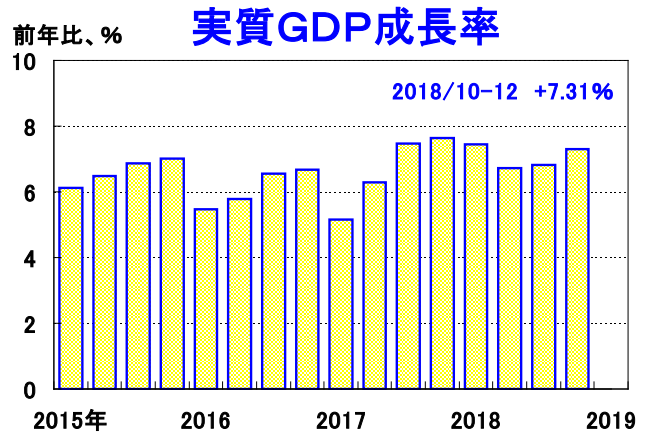
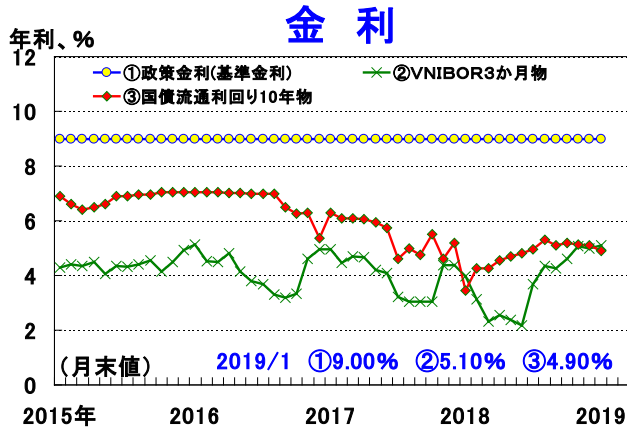


グラフで見るベトナム経済 2019年2月号(No. 109)

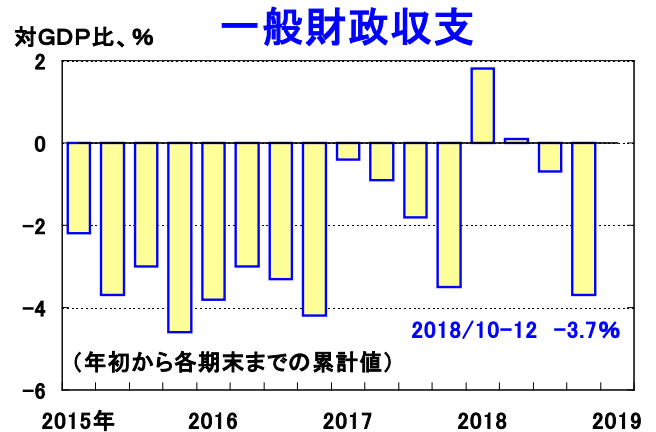
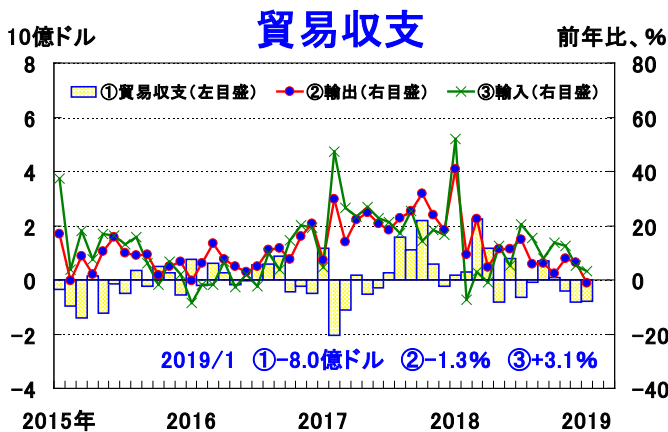
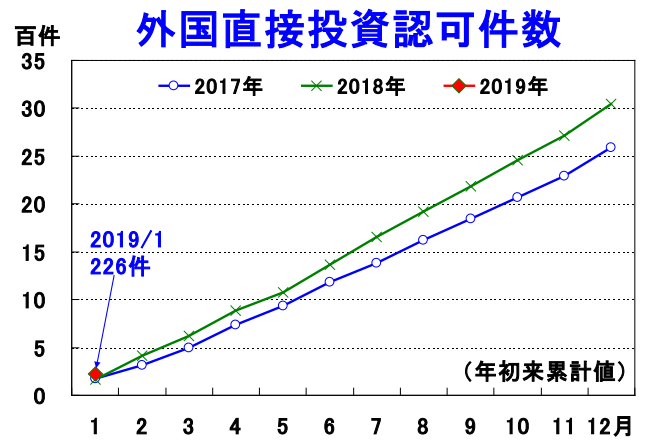
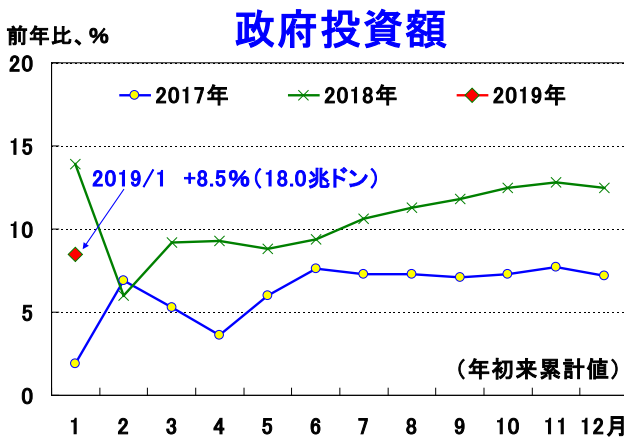
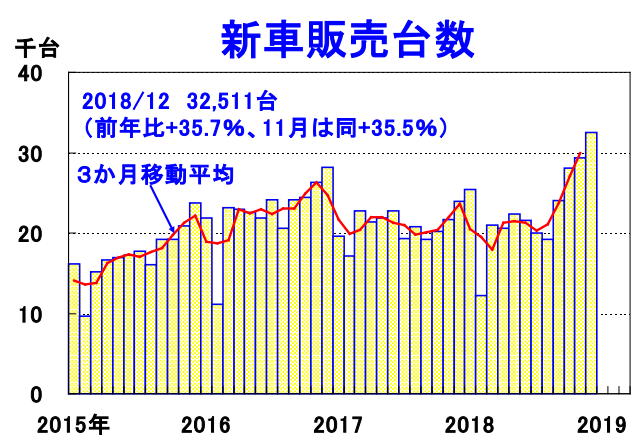
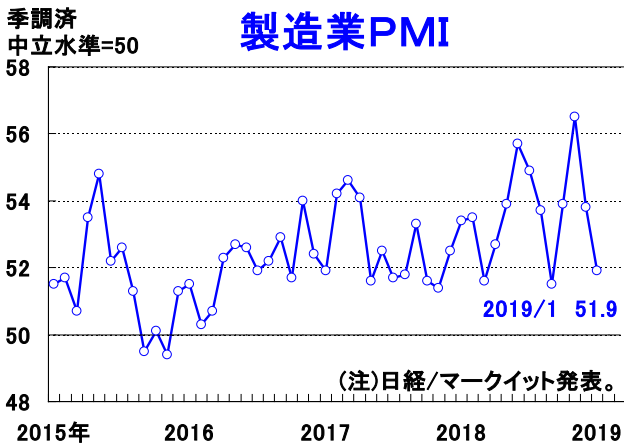
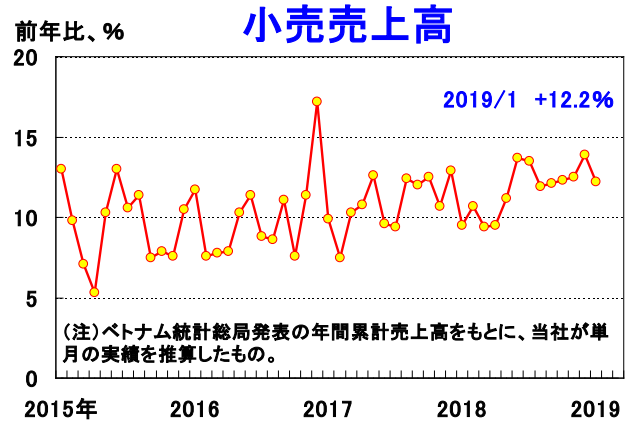
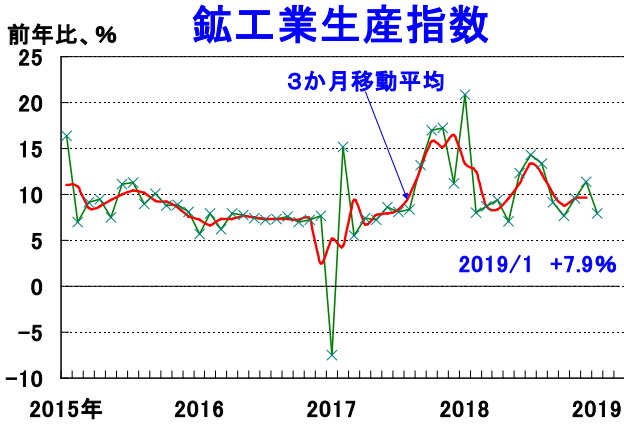
ベトナムの2019年1月の経済指標をみると、今年の旧正月(テト)休暇が2月の上旬となった(2月2~10日、昨年は2月14~20日)影響もあり、弱めの結果となった。すなわち、輸出は前年比-1.3%(前月は同+6.5%)と2016年1月以来の前年水準割れに転じ、鉱工業生産も同+7.9%と前月の伸び(同+11.4%)を下回った。こうした中、製造業PMIは51.9と38か月連続で中立水準の50を上回ったものの、2018年9月以来の低水準にとどまった。次に、家計部門をみると、小売売上高は前年比+12.2%と前月に比べて増勢を弱めた。



【今月のトピック: 銀行の不良債権処理が前進】 ベトナム国家銀行(中央銀行)によると、2018年末の銀行の不良債権比率は1.89%と、2017年末時点の1.99%、2016年末時点の2.46%から低下した。政府当局は、不良債権比率を2%未満とする目標を掲げ、銀行に資産健全化を促進するよう要請してきた。多くの銀行が2018年第4四半期に相当規模の不良債権処理を行い、一部の銀行は大幅な減益となった。こうした中、2018年の貸出の増加率は最近5年間で最も低い伸びにとどまった。ただし、銀行の不良債権処理の進展は、今後、銀行の中長期的な資金供給力を高める要因となろう。

(出所) ベトナム国家銀行 (SBV)、ベトナム統計総局 (GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。